

# 二〇〇四参議院選挙

参議院議員選挙では高知県選挙区（定数二）で先般7月11日に執行された。当初盛り上がりが高く、争点が乏しいとされていたこの選挙は、地方にとっては不利となる政府案の「三位一体の改革」「国会議員の年金未払い」「年金改正法案」「イラクへの自衛隊派遣」等の問題が噴出し、マスコミが連日、盛んに取り上げ国民の国政への怒りが投票率を上昇させて、予想外で投票率が前回を上回った。私は、5月の初旬から県民の皆さんのご意見をお伺いしながら、後援会の幹部会で協議した。後援会幹部の中でも、私の立場も良く考えていただいた上で、「選挙対応は「傍観論」や「慎重論」が多数を占めた。そこで私はマスコミの資料は勿論、高知の様々な方々に「高知の参議院議員」に求めるものを聞かせていただき、広田一氏を選択した。その理由は①国民の怒りや、憤りは「私たち地方の声が国に届いていない。」「参議院議員が遠い」「政権政党のワンマン」ぶりに不満などがあり、政党に縛られず、身近で自由な発想が出来て行動が出来る人が望ましいと考えた。

②広田氏の県民を仕分けしない、幅広い意見と支持の拡大を目指したこと。前回とは違い、橋本知事全面支持体制でなく、本人個人で立つとした勇氣。

③広田氏の真摯な態度と、国政に対する熱い思いと、共感できる政策。

私は、県議として明確に広田氏支持を打ち出し、40人の県議の中で明確にしたのは同じ会派の黒岩議員だけだった。結果、広田氏個人の努力、支持者の熱心な運動、県民の希望をのせて見事当選。

私が広田氏個人に望むこと。役割分担の中で高知を互いに切磋琢磨して良くすること。外交、防衛、大型経済など国政の役割である仕事に対し、徹底的に高知の声を上げてくれること。

## 高野切れ購入

山内家国宝を  
県が7億円で購入

今年8月初旬、県の関係部局より山内家所有の国宝「高野切れ」を7億円で購入したいと会派に突然相談があった。「財政危機宣言」直後の「高野切れ」1点の購入の7億円には理解しがたいものがあった。9月初旬、山内家から県に寄贈される「三万六千点の大名家代々の財産」を山内宝物館で見学し、正直驚いた。美術品は勿論、時代時代の大名家の帳簿や、武器、刀、源義経の甲冑、徳川家康、豊臣秀吉、石田三成直筆の書状など、圧倒された。「なぜ、県はこれらをセットで県民にアピールしないのだろうか」と疑問が湧いた。

9月中旬、国立博物館で「高野切れ」の現物を観た。正直あまり魅力を感じなかった。

鑑定士の評価もそうであるが、私は「高野切れ」と寄贈物「三万六千点」はセットで考えると、活用次第では県民への文化的波及効果や観光波及効果においても7億円は安いと考えた。高知新聞が「高野切れ」購入について特集を組み、投書にも意見が掲載された。私は、ゆうに百名以上の県民に説明をして賛否を聞いた。

結果は反対多数であった。残念ながら、多くの県民からは理解されていないとの印象を持たざるを得なかった。

一番疑問視したのは、

①購入してからの事業や展示計画（18年NHK大河ドラマ「功名が辻」も含めての波及効果の試算）

②維持管理にかかるコスト。（あれだけの物だから、当然相当かかる）

③経済波及効果の試算（十分に、7億円は回収できる。）

などを県は、基本的に「まずは購入してから」県民に理解をさせていただく為の基本的な説明経緯を後回しにすると言うことであり、これら最低限の活用策は購入前に県民に示すべきである。

私は「基本的に購入には賛成だが、県民の理解をもっと得る努力をすべき」と判断。9月議会での購入には反対の意志表示をし、9月から12月まで県民に理解を求める最低限の努力をすべきであり、「12月議会までの継続審議の修正案」を選択した。結果、県議会は9月で「購入賛成多数」で高野切れ購入を決定した。

私は、「高野切れ」や「三万六千点の寄贈品」などの山内家財産を広く県民の共有財産と強く認識し、県がその価値を県民に対し引き続き説明して行くことを強く望み、私自身も微力ながら、県内外にアピールしていきたい。



7億円で購入の古今和歌集写本



36,000点の寄贈品の極一部